

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月7日 NO.85

第七小学校の  
よい子のみなさん  
こんにちは！

私は菅原道真  
(すがわらみちざね)  
といいます。  
よろしく！



花ちゃん 「うわあー！菅原道真（すがわらみちざね）さんだ。」

オー君 「今日は、ぼくたちのために、七小に来てくれてありがとうございます。」

菅原道真 「みんなに会うことができ、とてもうれしいね。それでは、今から『何でも質問会（しつもんかい）』をやりましょう。」

花ちゃん 「それでは、小さいころの『みちざねさん』は、どんな子だったのですか。」

菅原道真 「詩（し）や文章（ぶんしょう）を書くのが好きだったね。」

オー君 「テストとかもあったのですか。」

菅原道真 「国家試験（こっかしけん）というのがあってね、それに合格したんだよ。」

花ちゃん 「それって、けっこうむずかしいのですか。」

菅原道真 「そうだね。『方略試（ほうりゃくし）』というもので、200年間に合格した人は65人しかいないという、超（ちょう）むずかしい試験なんだよ。」

オー君 「へえー。すごいですね。『みちざねさん』は天才なんですね。」

菅原道真 「そうではないよ。一生懸命に努力（どりょく）してお勉強したんだよ。」

花ちゃん 「その後、『みちざねさん』はどうしたのですか。」

菅原道真 「文章博士といって、今で言えば、先生のような仕事（しごと）をして、その後、知事（ちじ）さんのような仕事もしたんだよ。」

オー君 「すごいですね。その後はどうされたのですか。」

菅原道真 「その後、都に帰ってからは、天皇中心の政治（せいじ）をおこなうために、権中納言（ごんちゅうなごん）、権大納言（ごんだいなごん）、そして、右大臣（うだいじん）となって、がんばって仕事をしたのさ。」

花ちゃん 「すごいですね。政治の世界でも大活躍（だいかつやく）したんですね。」

菅原道真 「ところがね・・・。」

オー君 「ところが、どうかしたのですか。」

菅原道真 「無実の罪（むじつのつみ）をきせられて、九州まで流され、死んでしまったんだ。」

花ちゃん 「無実なのに、本当にくやしかったでしょうね。」

菅原道真 「その後、いろいろと悪いことがおこって、私の怨霊（おんりょう：うらみをもって死んだ霊【れい】）のたたりだとうわさされてね、そのたたりをしずめるために私を神としてまつたのが、天満宮（てんまんぐう）のはじまりさ。それからは、私のことを天神様というようになったのさ。もともとは、農業（のうぎょう）の神として雷神（らいじん）をまつるものだったらしいよ。」

オー君 「なるほど、そういうことですか。」

菅原道真 「それでね、学問（がくもん）の才能（さいのう）にすぐれていたのが、『学問の神様』・『受験（じゅけん）の神様』になったというわけさ。」

### 藤原道真の詩文

道真の詩文は「菅家文草」と「菅家後集」にまとめられている。菅家文草は12巻で900年に成立。菅家後集は1巻で903年頃成立。後書は道真が太宰府に左遷された後、この地で死ぬまでの作品を集めて友人の紀長谷雄に送ったもの。道真はまた、六国史の一つである「日本三大実録」編修にも参加しており、歴史資料集である「類聚国史」もあらわしている。